

鹿島錦の歴史

鹿島錦は今からおよそ二百年前、鹿島鍋島藩主直彞公夫人篤子様（柏岡様）が病の床に臥したとき、ふと見上げた天井の網代模様あじろがたの面白さに心惹かれ、これで何か日用品を作れないかと側近のものに相談されたので、近習の並木某が苦心研究の末、観世縫かんせよりで網代形を編み、印籠等を作ったところなかなか雅趣があるものになったのが始まりと云われています。

その後、歴代の夫人によって工夫が加えられ、殿中の人々によって後世に伝承されました。中でも第十三代藩主直彬公夫人藺子様は、熱心に工夫改良に努力され、その伝統は第十四代藩主直繩公夫人政子様なつかしに受け継がれ、今日に至っています。

明治中頃まで、佐賀地方で織られる錦は、組み錦や鹿島錦と呼ばれていました。明治四十三年（1910年）ロンドンで日英大博覧会が開かれ、鹿島錦が出品されることになり、大隈重信侯の計らいで、知名度を考慮して「佐賀錦」の名で出品されました。それ以来、佐賀錦の名称も一般的に使われるようになりました。

昭和四十三年（1968年）、鹿島市では、伝統的技術の継承と鹿島錦の発展を目的として鹿島錦保存会が結成され、鹿島錦教室が開講しました。以後、保存会員の努力により今まで受け継がれ、現在の発展を見るに至っています。



鹿島錦紗綾形文 簪迫しやあやがたもんはこそこ（鹿島市指定文化財）

艶やかな美の世界 鹿島錦



几帳（一对） 祐徳稲荷神社所蔵

鹿島錦教室のご案内

- 日時 毎週木曜日 第2・第4火曜日
- 場所 鹿島市生涯学習センター・エイブル2階

お問い合わせ

- 鹿島錦保存会
鹿島市古枝乙1686 祐徳博物館内 TEL 0954-62-2151
- 鹿島市役所産業部 商工観光課
鹿島市大字納富分2643-1 TEL 0954-63-3412

鹿島錦

伝統美

日本手工芸の極致

